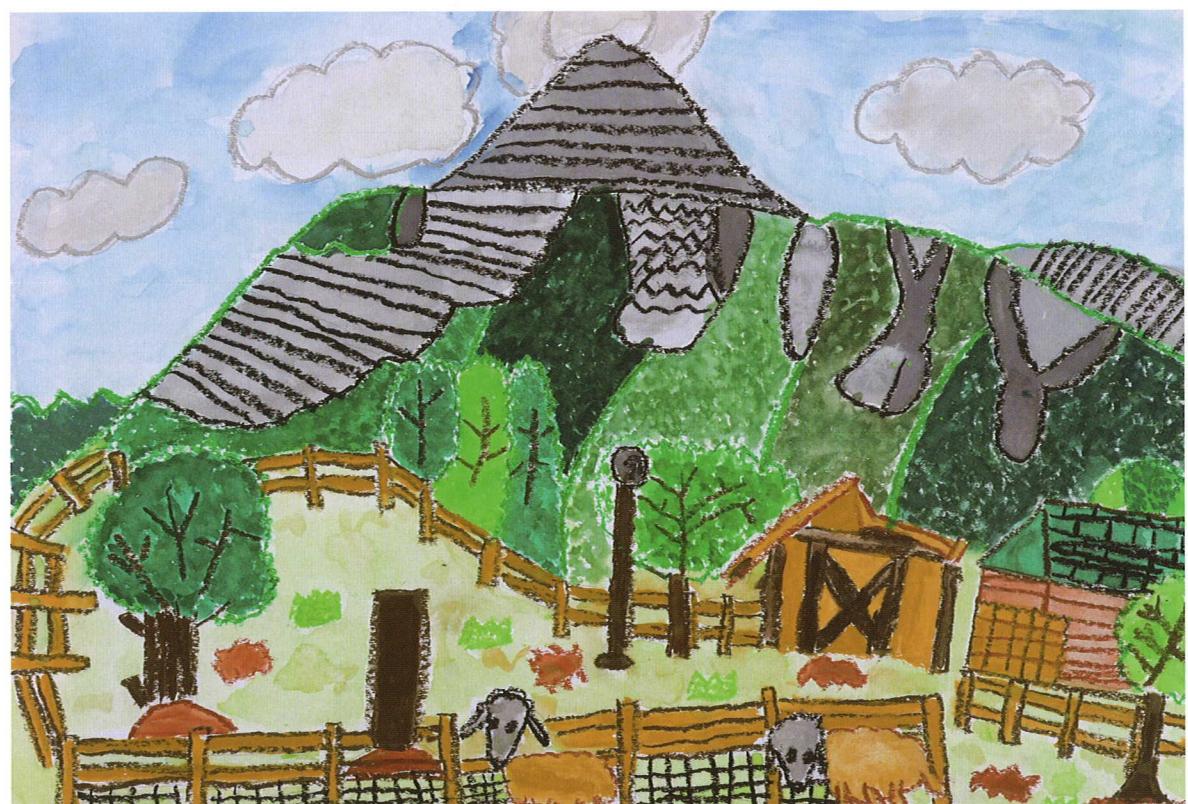


# 秩父社報 柞乃杜

秩父神社社報  
柞乃杜(ははそのもり)

第43号

平成23年7月20日  
(川瀬祭)



日本はひとつ

東國

頑張ろう

復興祈願

東日本大震災

## 廃墟と花鎮めと

風光明美な景勝地であつたはずの三陸沿岸の港まちは、見る影もなく無惨に瓦礫の山と化して、春の青空の下もと、空しく海風うみかぜが吹きすさぶ廃墟はいきょでした。

辛うじて命だけは奪われなかつた家族が、そこここに連れ立つて力なく瓦礫をまさぐつてゐる姿は、行方知れずの親兄弟を求め、大切な品を探してゐるのです。

ところが奇妙なことに、一面の廃墟のそこここに残つた桜の花が、今を盛りに咲き誇つてゐるのです。

悲しいまでに華やかな桜の花が、大津波の奪い去つた多くの大切な命を悼むように、北国の遅い春に応えて今年もまた花鎮めと、季節の訪れを告げたに違いないのです。  
こた  
はなしぢ  
いた

## 解説 秩父神社(42)

権禰宜 甲田豊治

### ◆埼玉県下武道大会と

#### 震災復興を願つて

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、宮城県沖を震源とする日本観測史上最大のマグニチュード9・0、「震度7」を観測した大地震が起つた。更に、その地震により発生した大津波が東北地方を中心とした太平洋沿岸に壊滅的な被害を及ぼしたものである。死者・行方不明者二万人以上、建物の全半壊合わせて十八万戸以上、震災による避難者四十万人以上、被災額としては二十五兆円と試算されており、まさに未曾有の大震災となつてしまつた。また、東日本の神社の被害としては、一都十五県にある神社の二百二十八社が全半壊し、更には三千三百八十万の神社から震災により何らかの被害があつたことが報告されている。

当社の由緒の史料として「日本三代実録」がある。

貞觀四年七月二十一日戊子条（862）

「武藏國正五位下勲七等秩父神正五位上」

貞觀三年十一月十日壬午条（871）

「武藏國正五位上勲七等秩父神從四位下」

この貞觀期は、稀に見る出来事が続

いて日本を襲つた時代であった。

貞觀三年（861）世界最古の目撃記

録のある隕石落下。



勢津子妃殿下を先導する菌田武男宮司

貞觀六年（864）富士山の大噴火。現在の青木ヶ原樹海は、この噴火時の溶岩流の上に約1150年の時を経て出来た樹海である。貞觀十一年（869）陸奥国東方を震源とする大地震発生。この地震に関し、「三代実録」には、出来た樹海である。

出来た樹海である。

貞觀十一年（869）陸奥国東方を震源とする大地震発生。

この地震に関し、「三代実録」には、出来た樹海である。

貞觀十一年五月二十六日、陸奥国で大地震が起き、空に光が流れ昼のようになつた。暫らくのあいだ、人々は叫び、立つている事が出来ず伏したままになる。ある者は家が倒れて下敷きになつて亡る。その後、雷鳴のような海鳴りが聞こえ、馬や牛が驚いて走り出し、踏みつけあつた。城や数えきれないほどの倉庫や門や櫓や堀などが崩れたり、道路もすべて海となり、船に乗る間もなく、山に登ることもできず、千人ほどの人がおぼれ死に、後には人々の財産も田畠も殆ど何も残らなかつた。」

という記録である。実際に、この度の東日本大震災と震源を同じくする大地震が起きていたのである。

○

当秩父地方の今回の震災時の状況を思い返してみると、揺れは長い時間感じられ、徐々に激しさを増すと同時に停電となり、震度は「5弱」と発表され、今までに経験した事のない揺れを体感したのではないかと思う。

その後も、関東地方では、余震と福島原発事故に伴う計画停電から、日常生活へと余儀なくされ、様々な方面に影響を及ぼしていった。

当社でも春の行事である剣道・弓道、柔道の競技大会である「秩父神社奉納埼玉県下武道大会（三道大会）」がその震災の影響を受けて、昭和三十三年開催以来初めて中止となつたことは大変残念な出来事であつた。

戦後、日本古来の伝統や美風を体現する武道を復興し称揚しつつ、次代を担うべき青少年の健全な心身を育成することを期して、当時の地元をはじめ県下の剣道・弓道・柔道各連盟の関係



昭和37年 広庭で行われた三道大会

来年こそは、新緑の清々しい中で、三道大会が開催される事を願うと共に、日々の日供祭をはじめ此の度の川瀬夏祭りに際しても、東日本復興祈願祭を斎行し、福島原発の一日も早い終息まろである。

## 海と息子たちと

宮 司 薦 田 稔

去る三月十一日午後二時四十六分に東日本の太平洋沿岸一帯を襲つた大地震と大津波は、福島第一原発事故を併発して文字通り未曾有の大震災となつてしましました。

とりわけ想像を絶する津波の猛威は、国立公園「陸中海岸」を含む三陸沿岸の風光明美な景勝地を破壊したばかりか、世界有数の漁業基地をことごとく壊滅させ、豊かな田園地帯をも飲み込んで繁華な港町やのどかな村里をも破壊し尽し、實に二万人を超える死者と行方不明者を数え、建物の全半壊が十八万戸余り、被災者は四十万人に達して、今なお多くの方がたが不自由極まりない避難生活を余儀なくされている有りります。

秩父という山里に棲む私どもも、震度5弱の長い地震に肝を冷やしたもののが幸いに然したる被害もなく無事でしたが、テレビ報道で見聞する生々しい悲惨な情景には、他人事ならず心を痛め誰もが親身になつて、被災地を見舞う手立てを尽してきたことでした。

かくいう私も、この震災を蒙つた知人たちの僅かな消息に一喜一憂しながらひと月半ばを過ぎて、ようやく幹線道路も復旧した四月末から三日ほど、友人に誘われて宮城県北端の気仙沼を中心に被災地の数か所を見舞い、また五月七日には仙台の東北大構内で開催された宮城県内宗教者たちの「祈りの心—東日本大震災に宗教はどう向きあうか—」という集会にも参加して参りました。



○大槌港の被災地を望む

既にテレビ取材で何度も拝見した通り、ご本人の風貌はまさに憔悴しきつた様子でしたが、それでも精力的に被災地を案内され、その後の緊急集会でも被災後の心境を率直に披露された言葉には、当事者ならではの重い響きと深い意味合いのものがあつたのです。なかでも聴く者の胸を打つたのが、「それでも海に恨みはない」

印象を交えて発言し、またその後に開催された神社本庁の教学研究大会でも「改めて神道の自然観を問い合わせる」という基調報告をした中でも言及したエピソードの一端を、ご紹介してみたいと思います。

○

細かい話は抜きにして、四月三十日の早朝に友人の車で私と息子ともう一人の同行者の一行四人で秩父神社から気仙沼に向かつたのは、同地唐桑半島の入江で牡蠣の養殖を営みながら「森は海の恋人」と銘打つて盛んな植林運動を実践し、しかも全国的な環境緑化の啓発に活躍されて広く名の知られる畠山重篤さんを現地に見舞うためでした。

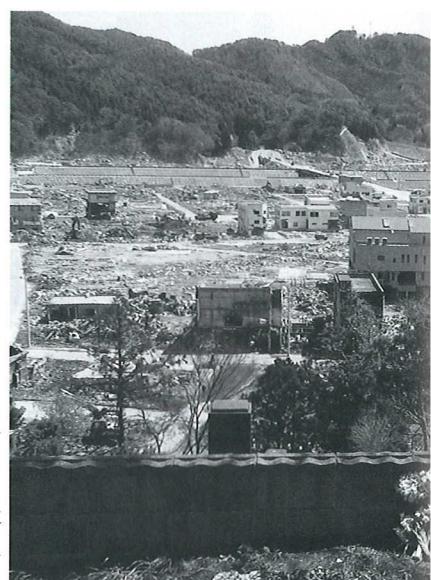
畠山さんは、今から十八年前に平成五年の第六十一回伊勢神宮式年遷宮を期して神社本庁が主催した「千年の森に集う」国際会議に共に参画したのが縁で、その後、当社で企画した「まほろば」シンポジウムに招いたところ、彼が推進している地元の植林地の名称が偶然にも当社の社叢「ははその森」と同名であることに驚いたり喜んだりされて、以来何度も秩父や私の関係する会議に出席してくれるなど親交を深めてきた人物なのです。

昨年の秋、気仙沼一帯の神体山に鎮座する室根神社の四年に一度の式年大祭を採訪した機会に、初めて訪問したばかりの畠山さんの経営する水山養殖場は、今回二度目に辿り着いた私の眼には、見るも無惨に変わり果てた廃墟でしかありませんでした。

○

という言葉と、「私には三人の息子と四人の孫が残つた」という述懐でした。

「それでも海に恨みはない」という発言は、およそ三〇年前の牡蠣の稚貝養殖に異変が起つた原因が、気仙沼湾に豊富な植物プランクトンを恵んでくれた大川上流の室根山一帯の森林が荒れ果てたからと気づいて、漁民仲間に語らつてブナやミズナラなどの水源林「ははその森」を育ててきたお蔭で近年は力ギやホタテの豊富な漁場が蘇つたこと。そこで全国の二万を超える大小河川の水源山地を緑化して、現に深刻な「磯焼け」に瀕している沿岸漁業を再生させる「森は海の恋人」運動——彼の表現では「全国の水源山地を『陸の鎮守の森』にすることで全国の沿海を海藻豊かな『海の鎮守の森』に戻そう」という壮大な環境緑化の啓発運動に広げつつある矢先に、恵みの海の思わぬ暴威を蒙つた、そ



陸中海岸の景勝地 岩

の打撃を語られた後の偽らざる心情の吐露だつたのです。

この発言には、集会に駆けつけた北海道や志摩半島の漁業代表者たちが涙を流さんばかりに感動して次つぎに共感の言葉を継がれ、参会者一同にも強い印象を与えたことでした。

そこには、海に生きる者ならではの大自然への畏怖と信頼の態度が如実に示されてあるからこそ日本人らしい共感と感動を呼び起こしたのでしよう。さらに辛くも三人の息子と孫たちが無事に残つたという述懐は、最愛の老母を津波で亡くされた上で万事打ちひしがれた逆境のなかでも、既に六十八歳という老境を迎えている畠山さんが、遺された人生を賭けて再度復興に立ち上がる励みとなることを物語る言葉でした。

海という大自然への変わらぬ信従と、子々孫々との命の絆への信頼と、そこには海洋国に息づく日本人古来の生きざまを改めて思い知るものがありましょう。



### 【表紙絵解説】

この度の表紙絵画は、秩父市学童・生徒による図画・作文展の作品集「武甲山」から、平成22年度図画小学生の部において、秩父市教育長賞を受賞した高篠小学校3年生深田実黎さんの作品を掲載させて頂きました。

秩父の春を彩る芝桜で有名な羊山公園。その公園内にある「ふれあい牧場」を背景に、雄大にそびえる武甲山。可愛らしい二頭の羊と山肌の微妙な色合いを特徴的に描いている今回の作品。

深田さんは、七五三詣など当社にもよくお参りを頂いており、特にお祭りは大好きで、川瀬夏祭・冬の夜祭も楽しくお参り頂いているそうです。学校の科目では算数が好きで、将来はケーキ屋さんになりたいとのことでした。これからも絵画に勉強に将来の夢に向かって励んで頂きたいと思います。

### 【表紙解説】

## 東日本大震災 復興祈願 頑張ろう東国 日本はひとつ

この度の震災で、壊滅的被害を受けた東北。そして関東においても様々な影響が及んだ訳ですが、この東日本に向けて、日本全体が一つとなつて震災を心配し、助け合い、被災地への様々ななかたちの応援が届けられました。

しかし、福島第一原発事故の終息が見られない今の状況から、震災は、まだ現在進行形。しかも予断を許さない状態が続いている以上、これからが、日本は今以上に団結し、この困難の状況から脱するためにも心を一つに、力を一つにして、再び東国に実り豊かな時が訪れる事を願うのであります。

## 秩父宮記念室について



権籠宣 新井君美

今回は、当社平成殿二階に設けられている「秩父宮記念室」についてご紹介させて戴きます。

秩父宮家は、大正天皇の第二皇子であつた淳宮雍仁親王殿下が成年に

達せられた大正十一年にご創建された宮家であり、秩父宮の宮号は当地の地名に由来することから、秩父郡市民にとりまして特に思い出深い宮様でいらっしゃいます。幾度となく秩父地方にお成りになり、当社に対しても格別の恩召しをもつて、貴重な品々をご下賜戴いて

おりましたが、近年、秩父宮妃殿下の甥にあたられる松平恒忠様より秩父宮会を通じて、多くのご遺品をご寄贈戴きました。

この春、秩父宮会よりアンティークの展示ケースをご奉納戴き、特に秩父宮妃殿下が愛用された品々をはじめ、秩父宮殿下が兄君である昭和天皇より賜つた硯箱（右写真）など特別な品も含まれています。

秩父宮殿下には、昭和二十八年に御年五十歳の若さで薨去あそばされました。既に秩父宮家は断絶してしまいましたが、当地では昭和四十二年に秩父宮記念市民会館が建設されたほか、そのご遺徳をお伝え申し上げる各種スポーツ大会が連綿と受け継がれ、今もなお賑やかに開催されています。

当社ご参拝の砌には、是非ともご覧戴きたい施設のひとつとしてご案内させて戴きます。

＊ 見学をご希望の際には、予めお申し込み下さい。



## 新人紹介

権籠宣 淺見知史

此の度、七月一日付をもって秩父神社権籠宣を拝命致しました。



見知史です。

平成十二年に國學院大學を卒業し、園田宮司様の指導を得まして、東京都千代田区永町に鎮座します元官幣大社 日枝神社に奉職が出来まして以来十一年間、宮西惟道宮司様をはじめ諸先輩より数々の教えを賜りました。皇城の鎮護と仰がれる日枝神社の祭礼は山王祭と呼ばれ、その中で二年に一度、神幸祭があります。

この祭りは、総代・氏子青年五百余名の奉仕により、午前八時本社を御発輦、氏子各町を御巡幸、途中国立劇場、皇居坂下門で駐輦祭、日本橋摶社で御旅所祭を執り行い午後五時半頃還御します。東京の真ん中でこのような祭りを六度奉仕する貴重な経験もさせていただきました。

故郷秩父に戻り、祖父・父と同様に秩父神社での御奉仕が叶うこと無上の喜びとして、大神様にお仕えしていく所存です。浅学菲才の身ですが、どうか皆様方に於かれまして

は厳しくも暖かい目で、ご指導ご鞭撻賜りたくお願い申し上げます。

巫女見習久保美咲

平成四年六月十一日生

秩父郡皆野町出身

県立小鹿野高等学校卒業

音楽鑑賞



は厳しくも暖かい目で、ご指導ご鞭撻賜りたくお願い申し上げます。

巫女見習久保美咲

平成四年六月十一日生

秩父郡皆野町出身

県立小鹿野高等学校卒業

音楽鑑賞

は厳しくも暖かい目で、ご指導ご鞭撻賜りたくお願い申し上げます。

巫女見習久保美咲

平成四年六月十一日生

秩父郡皆野町出身

県立小鹿野高等学校卒業

音楽鑑賞

巫女としての責任を感じています。まだまだ経験や知識も少なく、皆様方に迷惑をお掛けすることも多々あることと思いますが、各地から訪れる沢山の参拝の方々のお役に立てるよう、精一杯努力していきたいと思います。また、自分自身の資質向上を図り努めていきたいと思つておりますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。



◆ ははそのもり俱楽部



◆ 松月古流華展開催



当社守屋

権禰宜が家

元を拝命し

てはる松月

古流のいけ

ばな展が五

月三日～五

日まで、平

成殿及び天

神地祇社回

廊において

開催されま

した。

ヒヨンノキ等と呼ばれているそうです。また、この木で製造される木刀は、示現流系統の剣術で使用されていることは有名。更に、この木の灰は「イスバイ」と言い、焼き物の釉薬の灰としてはとても貴重なものであると言われています。お参りの際は上境内本殿西側に献木頂きましたので、お参りの際は是非ご覧ください。



◆ 光輝く妙見守

この度、光を集めて闇に輝く妙見守が新たになりました。

以前は、「花園妙見」の縁から、花父の野に咲く材料を取り合わせ「自然の大切さ」を心掛けた作品展となりました。

また、会場ではこの度の東日本大震災に対しての義援金募金活動も併せて行われ、多くの方々にご協力を頂きましたことを御報告致します。



平成二十三年八月七日(日)  
午後三時～午後五時

- ◆ 平成二十三年八月七日(日)  
午後三時～午後五時
- ◆ 「七夕に思いをかけて  
社殿彫刻の見学と笙の調べ」
- ◆ 参加費 一五〇〇円

記



※本報の用紙は再生マット紙  
を使用しています

平成二十三年(2011)七月二日  
編集発行 秩父神社社務所  
〒368-04 埼玉県秩父市番場町1-13  
TEL(049)221-0262  
FAX(049)241-5596  
印刷所 有限会社 拡文社 印刷所  
〒368-04 秩父市東町271-8

編集後記